

岡山県立和気閑谷高等学校学校運営協議会 ー第2回会議議事録ー

日時：令和3年12月21日（月）9：30～11：30 場所：県立和気閑谷高校管理棟3階会議室

- 1 開会 会長挨拶、校長挨拶
- 2 委員紹介 15名中11名参加
- 3 授業見学（一人一台端末活用場面）1年「コミュニケーション英語Ⅰ」、2年「日本史B」
- 4 協議

（1） 学校経営計画の中間評価について

重点項目「①学びの質の更なる向上 ②地域との協働体制づくり ③生徒募集活動の充実」

＜重点項目に対する主な意見＞

- ・特別な支援を必要とする中学生保護者のニーズは高く、支援学校とは別に、高校教育で、選択肢の受け皿を増やしてほしい。東備地域普通科高校は定員が減ってきているので支援がきめ細かくできる状態になっているということも保護者にアピールしても良いのでは。
- ・通信制を選ぶ中学生が増えている。集団の中での教育に馴染まない生徒が増えてきているということなのではないか。少人数授業で個に応じた教育をしていることをしっかり発信してはどうか。
(回答) 少人数授業の対応が必要。それが可能な生徒、教員の数が必要になる。人的措置を取れば、受け入れて何もできないということになる。
- ・出口対策が入学対策になるという視点が弱い。出口の仕組みを作り、宣伝してはどうか。

＜重点項目に対して今後考えられる対策＞

- ・戦略が大事。この会議も成果が出ていることを感じることもあれば、時間をかけている割に成果が出ていないと感ずることがある。例えば、中間報告を説明する時間を減らし、他校の実例など、みんなで語り合えるような、みんなで前に行けるような会議に変えた方が良い。短い会議に。また、様々な立場の委員から意見を引き出せるような会議に。
- ・中学校と人事の交流をしてはどうか。
(回答) お互いを繋ぎ合わせて、いい授業ができるよう、学ばせ方を学ぶ必要もあるだろう。
- ・和気閑谷の普通科は、多様性に対応しているということを前面に出すべき。地域に伝わるように。
(回答) 普通科協働探究系についてアピールしていきたい。
- ・保護者として子どもが希望する3年間通える高校に行かせたい。学校をよくするためには生徒も他から見られているということは気にしなければいけない。生徒の姿を見て、ここに入りたいと思う子どもが増えなければ意味はない。
- ・丁寧な対応が社会全体で求められている。放課後の補習や、励ましの声かけ、面談の繰り返しといった丁寧な指導をアピールしてはどうか。
- ・この会議の場をどう活かしていくか。一定の成果を上げていることについては承りたい。そして色々なところに和気閑谷高校が頑張っていることを宣伝したい。資料を見ると着実に成果は上げている。どのように成果を上げたかという分析が必要。
- ・「中学時代には前面に出られなかった生徒が活躍できる」という場面が、総合的な学習の時間も含まれてある。
- ・ICT活用の授業見学をして、本時の目標が示されて、問いをもとに意図した授業をしている。先進校として、和気閑谷モデルを示してほしい。

5 事務連絡

6 閉会